

2020 年前期

ベクトル (基礎数理 I(a) 講義資料)

1 ベクトルの定義

定義 1.1

1. 有向線分: 平面 (あるいは空間) の 2 点 A, B を結んだ線分 AB に、A から B への「向きをつけた」線分 (図 1)。A を始点, B を終点と呼ぶ。
2. ベクトル: 有向線分 AB の、位置を考えずに、方向と大きさだけを考えてもの。 \overrightarrow{AB} のように書く。
3. ベクトルの相等: 方向と大きさが同じベクトルは位置が違っていても等しいと考える。すなわち、 \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{CD} が同じ長さで、平行で、かつ同じ向きするとき、そしてそのときに限り $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$ となる (図 2)。

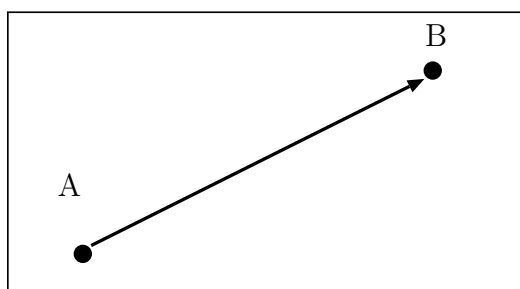
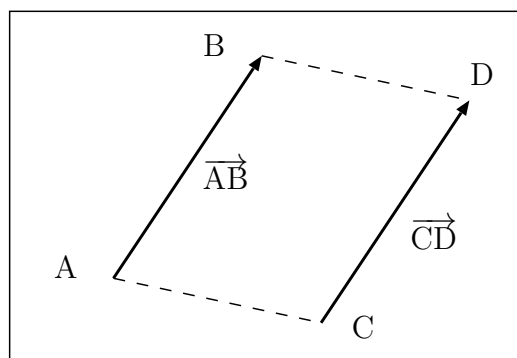


図 1: 有向線分 AB

図 2: $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$

☆注意

- ベクトルは位置は考えないので、始点、終点を使わず 1 文字の名前で表して \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} , ... (上に矢印), あるいは, \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} , ... (太字で矢印なし) のようにも書く。
- ベクトルの矢印は、必ず右向きに \overrightarrow{AB} のように書き、 \overleftarrow{BA} , \overleftarrow{a} とは書かない。

例:

- ◇ 変位ベクトル: \overrightarrow{AB} で、点 A から点 B への物の移動を表す。
- ◇ 速度ベクトル: 大きさが速さを意味し、方向が運動の向きを表す。
- ◇ 力: 大きさが力の大きさ、方向が力の方向。

問 1 中心 O の正六角形 $ABCDEF$ に対して、次のベクトルに等しいベクトル (O, A, B, C, D, E, F のいずれか 2 点からなるベクトル) をすべて上げよ。
 (1) \overrightarrow{OA} (2) \overrightarrow{AB}

□用語、記号等

- 位置ベクトル: 原点 O に対し、 \overrightarrow{OP} を点 P の位置ベクトルと呼ぶ。
- スカラー: ベクトルに対し、方向を持たない量、つまり通常の実数。
- 平面ベクトル: 2次元座標系 (xy) 内でのベクトル (2次元ベクトル)
- 空間ベクトル: 3次元座標系 (xyz) 内でのベクトル (3次元ベクトル)
- 大きさ: $|\mathbf{a}| =$ ベクトルの大きさ (長さ)。
- 単位ベクトル: 大きさが 1 のベクトル

例:

- ◇ 力、速度、加速度はベクトル、温度、時刻、長さ、面積はスカラー。
- ◇ $\overrightarrow{AA} = \mathbf{0}$

☆注意

- ベクトルとスカラーが等しくなることはない。

定義 1.2

任意の点 A に対し、 \overrightarrow{AA} も長さが 0 のベクトルと考え、かつすべて同じものとみなし、これを **ゼロベクトル** と呼び、 $\vec{0}$ や $\mathbf{0}$ (太字) で表す。なお、 $\mathbf{0}$ の向きは考えない (ない)。

例: $\overrightarrow{AA} = \overrightarrow{BB} = \mathbf{0}$, $|\mathbf{0}| = 0$

問 2 中心 O 、一辺の長さが 2 の正六角形 $ABCDEF$ に対して、次の値を求めよ。(1) $|\overrightarrow{AB}|$ (2) $|\overrightarrow{BD}|$ (3) $|\overrightarrow{CF}|$

2 ベクトルの和、差、スカラー倍

定義 2.1 (ベクトルの和)

$\mathbf{a} = \overrightarrow{AB}$, $\mathbf{b} = \overrightarrow{BC}$ とするとき (\mathbf{a} の終点と \mathbf{b} の始点を合わせる)、 $\mathbf{a} + \mathbf{b} = \overrightarrow{AC}$ とする (図 3)。

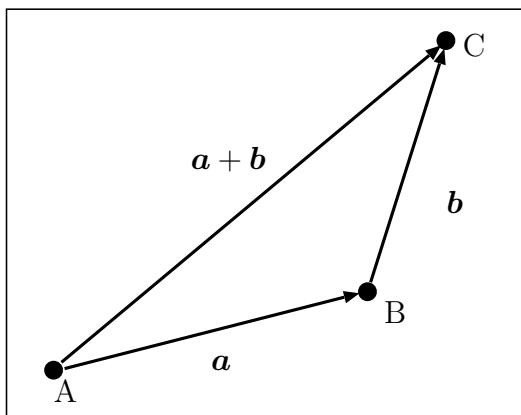


図 3: ベクトルの和の定義

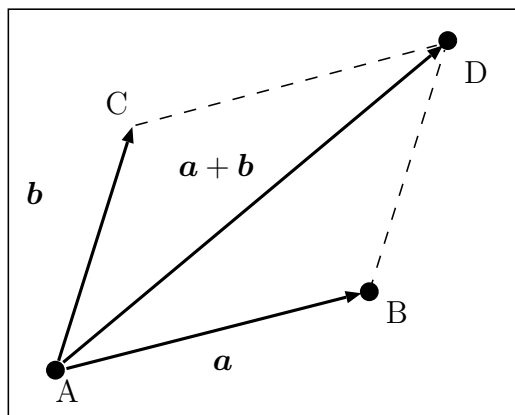


図 4: ベクトルの和 2.

☆注意

- ベクトルの和は以下のように考えてもよい。 $\mathbf{a} = \overrightarrow{AB}$, $\mathbf{b} = \overrightarrow{AC}$ とし (\mathbf{a} と \mathbf{b} の始点を合わせる)、ABDC が平行四辺形になるように D を取るとき、 $\mathbf{a} + \mathbf{b}$ を対角線のベクトル \overrightarrow{AD} とする (図 4)。

図 3 は変位ベクトル的な考え方、図 4 は力の合成のような考え方。

- ベクトルとスカラーの和はない (考えない)。

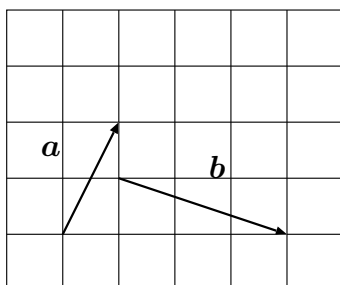
定理 2.2 (ベクトルの和の性質)

1. $\mathbf{a} + \mathbf{0} = \mathbf{0} + \mathbf{a} = \mathbf{a}$
2. $\mathbf{a} + \mathbf{b} = \mathbf{b} + \mathbf{a}$
3. $(\mathbf{a} + \mathbf{b}) + \mathbf{c} = \mathbf{a} + (\mathbf{b} + \mathbf{c})$
4. $|\mathbf{a} + \mathbf{b}| \leq |\mathbf{a}| + |\mathbf{b}|$

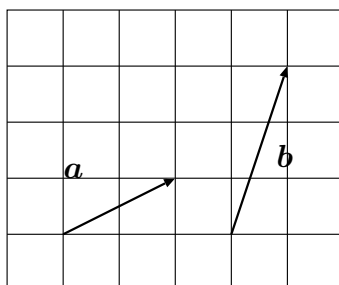
☆注意: $|\mathbf{a} + \mathbf{b}| = |\mathbf{a}| + |\mathbf{b}|$ となるのは、 \mathbf{a} と \mathbf{b} が同じ向きの場合、あるいは \mathbf{a} , \mathbf{b} の少なくとも一方がゼロベクトルの場合のみ。

問 3 以下の図に対して、 $\mathbf{a} + \mathbf{b}$ を図で示せ。

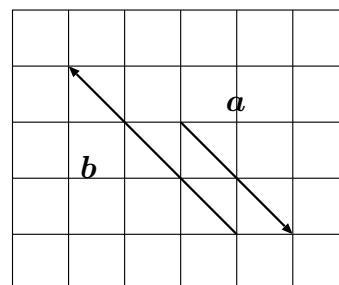
(1)



(2)



(3)



☆注意

- 図でベクトルを示すときは、矢印 (向き) をはつきり示すこと。
- \mathbf{a} と \mathbf{b} の和を図示する問題で、 \mathbf{a} に \mathbf{b} をつぎたした図だけを書かないこと。 $\mathbf{a} + \mathbf{b}$ の図が必要。
- 他のベクトルや方眼紙の直線と重なるベクトルを書く場合、(特に定規で書くと) 始点がどこか見えにくいので、少しずらすなどするとよい。
- ベクトルの複数の終点 (矢印) が重なる場合も見にくくなることがある。

問 4 $\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} + \overrightarrow{CA} = \mathbf{0}$ となることを示せ。

問 5 定理 2.2 の 2. が成り立つことを図を用いて説明せよ。

定義 2.3 (ベクトルの差)

1. 逆ベクトル: $-\mathbf{a}$ は \mathbf{a} と同じ大きさで向きが逆のベクトル。 $-\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{BA}$ 。
2. ベクトルの差: 差 $\mathbf{a} - \mathbf{b}$ は、 $\mathbf{a} - \mathbf{b} = \mathbf{a} + (-\mathbf{b})$ とする (図 5)。

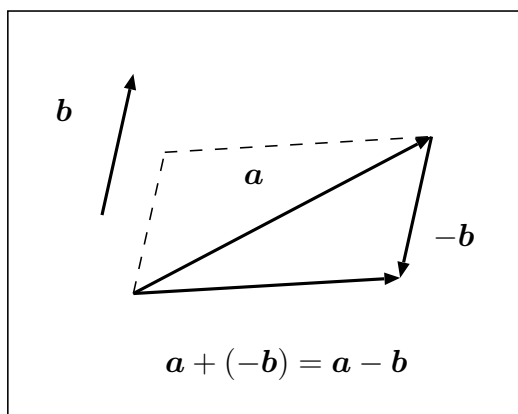


図 5: ベクトルの差

定理 2.4

1. $\mathbf{a} - \mathbf{a} = \mathbf{a} + (-\mathbf{a}) = \mathbf{0}$
2. $\overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AC} = \overrightarrow{CB}$
3. $\mathbf{a} - \mathbf{b} = \mathbf{c} \iff \mathbf{a} = \mathbf{b} + \mathbf{c}$

☆注意

定理 2.4 の 1. よりベクトルの差は、2つのベクトルの始点を合わせて終点をつなぐベクトル、と見ることもできる (が、そう考えると向きを間違いやすい)。

問 6 問 3 の \mathbf{a} , \mathbf{b} に対して、 $\mathbf{a} - \mathbf{b}$ を図で示せ。

定義 2.5 (ベクトルのスカラー倍)

実数 k に対し、ベクトル \mathbf{a} のスカラー倍 $k\mathbf{a}$ を次のように定義する (図 6)。

- $k > 0$ で $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$ のときは、 $k\mathbf{a}$ は \mathbf{a} と向きが同じで、大きさが $|\mathbf{a}|$ の k 倍のベクトル。
- $k < 0$ で $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$ のときは、 $k\mathbf{a}$ は \mathbf{a} と向きが逆で、大きさが $|\mathbf{a}|$ の $|k|$ 倍のベクトル。
- $k = 0$ 、または $\mathbf{a} = \mathbf{0}$ のときは、 $k\mathbf{a} = \mathbf{0}$ 。

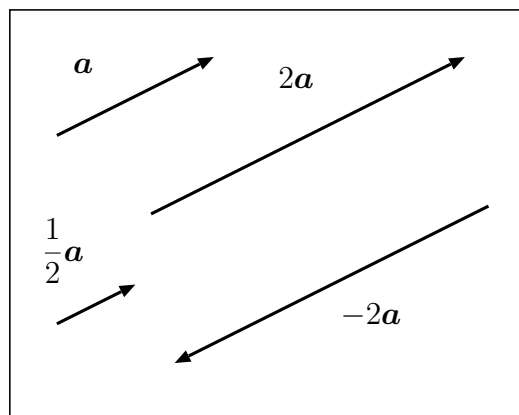


図 6: ベクトルのスカラー倍

定理 2.6 (ベクトルのスカラー倍の性質) k, l を実数とすると、以下が成り立つ。

1. $1\mathbf{a} = \mathbf{a}$, $(-1)\mathbf{a} = -\mathbf{a}$
2. $|k\mathbf{a}| = |k| \cdot |\mathbf{a}|$
3. $(k + l)\mathbf{a} = k\mathbf{a} + l\mathbf{a}$
4. $k(l\mathbf{a}) = (kl)\mathbf{a}$
5. $k(\mathbf{a} + \mathbf{b}) = k\mathbf{a} + k\mathbf{b}$

問 7 次の式を展開せよ。 $3(\mathbf{a} + 2\mathbf{b}) - 4(\mathbf{b} - 3\mathbf{a})$

問 8 問 3 の \mathbf{a} , \mathbf{b} に対して、 $\frac{1}{2}\mathbf{a} - \frac{1}{3}\mathbf{b}$ を図で示せ。

□スカラー倍の応用

- $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$, $\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ のとき、「 $\mathbf{a} // \mathbf{b}$ 」と「 $\mathbf{b} = k\mathbf{a}$ となる実数 k がある」は同じこと。
- $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$ のとき、 \mathbf{a} と同じ方向の単位ベクトル \mathbf{b} は、 $\mathbf{b} = \frac{1}{|\mathbf{a}|}\mathbf{a}$ 、
 \mathbf{a} と平行な単位ベクトル \mathbf{c} は、 $\mathbf{c} = \pm \frac{1}{|\mathbf{a}|}\mathbf{a}$ 。
- $\mathbf{0}$ でなく、平行でない 2 つの平面ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} を使えば、その平面のベクトルはすべて $s\mathbf{a} + t\mathbf{b}$ の形に表される (s, t はスカラー)。
- $\mathbf{0}$ でなく、1 つの平面上にない 3 つの空間ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} を使えば、空間ベクトルはすべて $s\mathbf{a} + t\mathbf{b} + u\mathbf{c}$ の形に表される (s, t, u はスカラー)。

問 9 中心 O の正六角形 ABCDEF に対して、 $\mathbf{a} = \overrightarrow{AB}$, $\mathbf{b} = \overrightarrow{AF}$ とするとき、次のベクトルを $s\mathbf{a} + t\mathbf{b}$ (s, t はスカラー) の形に表せ。

(1) \overrightarrow{AO} (2) \overrightarrow{AC} (3) \overrightarrow{BD}

3 ベクトルの成分

□用語、記号 (基本ベクトル)

- 基本ベクトル: 軸方向の単位ベクトルを 基本ベクトル と呼ぶ。
- 2 次元の基本ベクトルは \mathbf{e}_1 (x 軸方向), \mathbf{e}_2 (y 軸方向) (図 7)
- 3 次元の基本ベクトルは \mathbf{e}_1 (x 軸方向), \mathbf{e}_2 (y 軸方向), \mathbf{e}_3 (z 軸方向) (図 8)

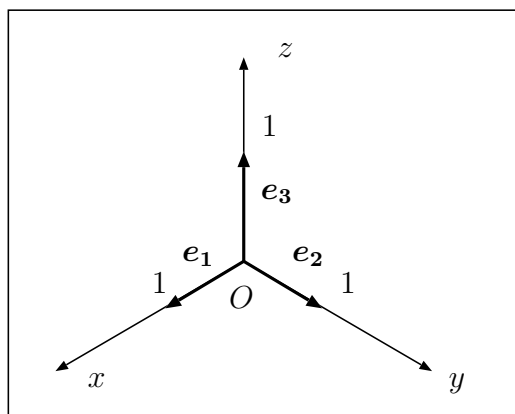
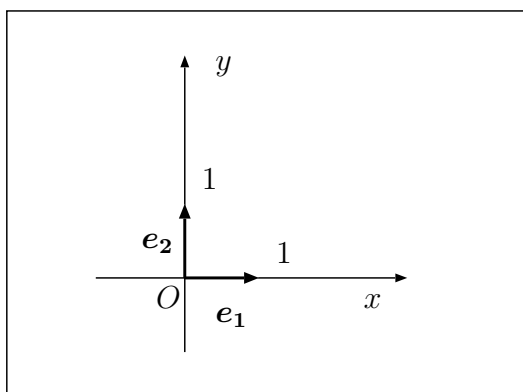


図 7: 基本ベクトル (平面ベクトル)

図 8: 基本ベクトル (空間ベクトル)

☆注意

3次元基本ベクトルは、物理や工学では i, j, k と書くことも多い。

□用語、記号 (成分)

- ベクトル \mathbf{a} の成分：「 $\mathbf{a} = \overrightarrow{OA}$ となる点 A の座標」を \mathbf{a} の成分と呼ぶ (図 9)。
- 平面ベクトルの場合: $A(a_1, a_2)$ のとき、 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ と書く。
- 空間ベクトルの場合: $A(a_1, a_2, a_3)$ のとき、 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$ と書く。
- a_1 を x 成分、 a_2 を y 成分 (3次元の場合 a_3 を z 成分) と呼ぶ。

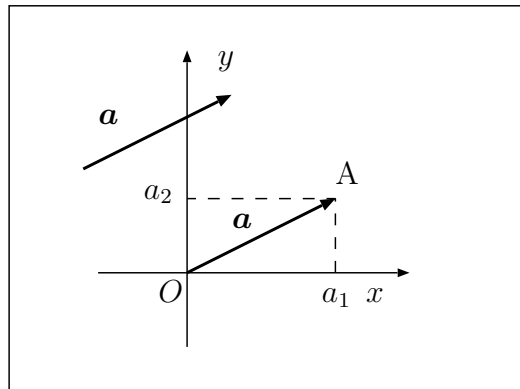


図 9: ベクトルと成分

☆注意

- $(a_1, a_2), (a_1, a_2, a_3)$ のように成分を横型に書く本もある。
- 成分が $\begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ というベクトルは、右 (x 方向) に a_1 , 上 (y 方向) に a_2 進むベクトル、と見ることもできる (空間ベクトルの成分も同様)。

問 10 次の成分を持つベクトルを xy 平面上に図示せよ。

$$(1) \mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ -3 \end{pmatrix} \quad (2) \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 0 \\ -3/2 \end{pmatrix} \quad (3) \mathbf{c} = \begin{pmatrix} 4-6 \\ 3+2 \end{pmatrix}$$

問 11 問 3 の格子の一マスが 1×1 のサイズであるとき、 \mathbf{a}, \mathbf{b} をそれぞれ成分で表せ。

定理 3.1 (基本ベクトルと成分)

1. 平面ベクトルの基本ベクトルの成分は、 $\mathbf{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\mathbf{e}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$
2. 空間ベクトルの基本ベクトルの成分は、 $\mathbf{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\mathbf{e}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\mathbf{e}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$
3. 成分表示は、以下のような基本ベクトル表現に直すことができる (図 10)。

- 平面ベクトル: $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \iff \mathbf{a} = a_1\mathbf{e}_1 + a_2\mathbf{e}_2$
- 空間ベクトル: $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix} \iff \mathbf{a} = a_1\mathbf{e}_1 + a_2\mathbf{e}_2 + a_3\mathbf{e}_3$

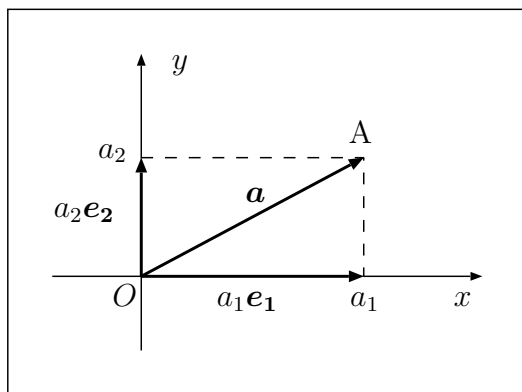


図 10: 基本ベクトル表現

定理 3.2 (成分による計算)

1. 平面ベクトルの場合: $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$, スカラー k に対して、
 - (a) $\mathbf{a} = \mathbf{b} \iff a_1 = b_1 \text{ かつ } a_2 = b_2$
 - (b) $|\mathbf{a}| = \sqrt{a_1^2 + a_2^2}$
 - (c) $\mathbf{a} = \mathbf{0} \iff a_1 = a_2 = 0$
 - (d) $\mathbf{a} \pm \mathbf{b} = \begin{pmatrix} a_1 \pm b_1 \\ a_2 \pm b_2 \end{pmatrix}$, $k\mathbf{a} = \begin{pmatrix} ka_1 \\ ka_2 \end{pmatrix}$
 - (e) $A(a_1, a_2)$, $B(b_1, b_2)$ のとき、 $\overrightarrow{AB} = \begin{pmatrix} b_1 - a_1 \\ b_2 - a_2 \end{pmatrix}$
2. 空間ベクトルの場合: $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$, スカラー k に対して、

$$(a) \mathbf{a} = \mathbf{b} \iff a_1 = b_1 \text{ かつ } a_2 = b_2 \text{ かつ } a_3 = b_3$$

$$(b) |\mathbf{a}| = \sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2}$$

$$(c) \mathbf{a} = \mathbf{0} \iff a_1 = a_2 = a_3 = 0$$

$$(d) \mathbf{a} \pm \mathbf{b} = \begin{pmatrix} a_1 \pm b_1 \\ a_2 \pm b_2 \\ a_3 \pm b_3 \end{pmatrix}, \quad k\mathbf{a} = \begin{pmatrix} ka_1 \\ ka_2 \\ ka_3 \end{pmatrix}$$

$$(e) A(a_1, a_2, a_3), B(b_1, b_2, b_3) \text{ のとき、 } \overrightarrow{AB} = \begin{pmatrix} b_1 - a_1 \\ b_2 - a_2 \\ b_3 - a_3 \end{pmatrix}$$

問 12 2点 $A(-1, 3), B(2, 5)$ に対して、次のものを求めよ (スカラーか成分で表す)。(1) \overrightarrow{AB} (2) $3\overrightarrow{BA}$ (3) $|-5\overrightarrow{AB}|$

問 13 ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 0 \\ -3 \\ 5 \end{pmatrix}$ に対して、次のものを求めよ。

$$(1) 4\mathbf{b} - 2\mathbf{a} \quad (2) 3(\mathbf{a} - \mathbf{b}) - (2\mathbf{b} - 4\mathbf{a}) \quad (3) |\mathbf{a} - \mathbf{b}|$$

問 14 ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}$ に対して、次のベクトルを $s\mathbf{a} + t\mathbf{b}$

$$(s, t \text{ はスカラー}) \text{ の形に表せ。 (1) } \mathbf{c} = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \end{pmatrix} \quad (2) \mathbf{d} = \begin{pmatrix} 4 \\ 0 \end{pmatrix}$$

問 15 $A(4, 3, -2), B(-5, 2, 3), C(1, -1, 0)$ で $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{CD}$ のとき、点 D の座標を求めよ。

問 16 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ 3 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} -6 \\ x \end{pmatrix}$ のとき、(1) $\mathbf{a} // \mathbf{b}$ となるような x の値を求めよ。(2) \mathbf{a} と同じ向き of 単位ベクトル \mathbf{c} を求めよ。

4 ベクトルの内積

定義 4.1 (内積)

1. $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}, \mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ のとき、 \mathbf{a} と \mathbf{b} の内積 (または スカラー積) $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$ を

$$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = |\mathbf{a}||\mathbf{b}| \cos \theta$$

と定義する (スカラー値)。なお、 θ は、 \mathbf{a} と \mathbf{b} のなす角で、 $0 \leq \theta \leq \pi$ (図 11)。

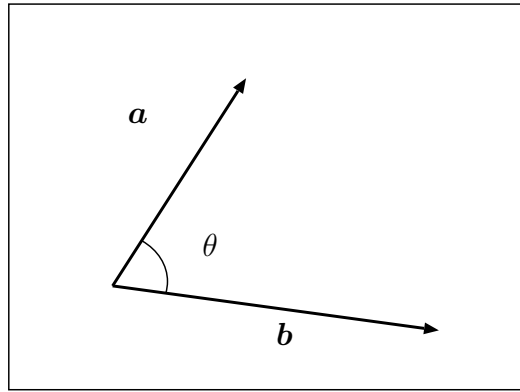


図 11: ベクトルのなす角

2. $\mathbf{a} = \mathbf{0}$ または $\mathbf{b} = \mathbf{0}$ のときは θ が決まらないが、この場合は $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0$ と定義する。

☆注意

内積 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$ を、 (\mathbf{a}, \mathbf{b}) や $\langle \mathbf{a}, \mathbf{b} \rangle$ と書く流儀もある。

- 問 17 中心 O 、一辺の長さが 2 の正六角形 $ABCDEF$ に対して、次の値を求めよ。(1) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD}$ (2) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AF}$ (3) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC}$

定理 4.2 (内積と成分) 内積は、成分で以下のように計算できる。

1. 平面ベクトル: $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ のとき、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2$
2. 空間ベクトル: $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ のとき、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3$

定理 4.3 (内積の性質) ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} 、スカラー k に対して次が成り立つ。

1. $\mathbf{a} \cdot \mathbf{a} = |\mathbf{a}|^2$
2. $\mathbf{b} \cdot \mathbf{a} = \mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$
3. $\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} + \mathbf{c}) = \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + \mathbf{a} \cdot \mathbf{c}$, $(\mathbf{a} + \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c} = \mathbf{a} \cdot \mathbf{c} + \mathbf{b} \cdot \mathbf{c}$
4. $(k\mathbf{a}) \cdot \mathbf{b} = k(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})$, $\mathbf{a} \cdot (k\mathbf{b}) = k(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})$
5. $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$, $\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ のとき、 $\mathbf{a} \perp \mathbf{b} \iff \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0$

問 18 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ -2 \\ 5 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 4 \\ -2 \end{pmatrix}$ に対して、次の値を求めよ。

(1) $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$ (2) $\mathbf{b} \cdot (-3\mathbf{b})$ (3) $(\mathbf{a} + 2\mathbf{b}) \cdot (\mathbf{a} - \mathbf{b})$

□内積の応用

- なす角: $\cos \theta = \frac{\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}}{|\mathbf{a}||\mathbf{b}|} = \frac{a_1b_1 + a_2b_2 + a_3b_3}{\sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2}\sqrt{b_1^2 + b_2^2 + b_3^2}}$
- 正射影: \mathbf{a} の \mathbf{b} 方向への正射影 ℓ は、 $\ell = \frac{\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}}{|\mathbf{b}|}$
- 内積の符号:
 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} > 0 \iff$ なす角が鋭角、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} < 0 \iff$ なす角が鈍角
- 展開: $|\mathbf{a} + \mathbf{b}|^2 = (\mathbf{a} + \mathbf{b}) \cdot (\mathbf{a} + \mathbf{b}) = |\mathbf{a}|^2 + 2\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + |\mathbf{b}|^2$ 等
- 基本ベクトルの内積: $\mathbf{e}_i \cdot \mathbf{e}_j = 0$ ($i \neq j$ のとき)、 $\mathbf{e}_i \cdot \mathbf{e}_j = 1$ ($i = j$ のとき)
- ある物を力 \mathbf{F} で P から Q まで移動したときの仕事量 W は、 $W = \mathbf{F} \cdot \overrightarrow{PQ}$

問 19 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ -1 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ 4 \\ -1 \end{pmatrix}$ に対して、それらのなす角 θ の $\cos \theta$ の値を求めよ。

問 20 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ -2 \\ 5 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ 4 \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{c} = \begin{pmatrix} 2 \\ y \\ z \end{pmatrix}$ が、 $\mathbf{a} \perp \mathbf{c}$ かつ $\mathbf{b} \perp \mathbf{c}$ であるとき、 \mathbf{c} を求めよ。

問 21 $|\mathbf{a}| = \sqrt{5}, |\mathbf{b}| = 3\sqrt{2}, \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = -3$ のとき、 $|\mathbf{a} - 2\mathbf{b}|$ の値を求めよ。(ヒント: $|\mathbf{a} - 2\mathbf{b}|^2 = (\mathbf{a} - 2\mathbf{b}) \cdot (\mathbf{a} - 2\mathbf{b})$ を展開)

問 22 東西方向に伸びるレールの上に乗っている重りを、力 5.0 [N] で北東方向に引いて、レール上を東 15 [m] 移動した。このとき重りにした仕事量 W を求めよ。

5 平面の方程式

□ 3次元空間の平面の方程式

3次元空間内の平面 α は、それに垂直なベクトル $\mathbf{n} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$ と、平面上

にある一点 $A(x_0, y_0, z_0)$ で決定する。

この場合、「点 $P(x, y, z)$ が平面 α 上にある」ことは、「 $\overrightarrow{AP} \perp \mathbf{n}$ 」と同値になり、よって、「 $\overrightarrow{AP} \cdot \mathbf{n} = 0$ 」と同値になるので、よって、平面 α の方程式は $a(x - x_0) + b(y - y_0) + c(z - z_0) = 0$ となる。

定理 5.1 (平面の方程式)

1. $A(x_0, y_0, z_0)$ を通り、 $\mathbf{n} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$ に垂直な平面の方程式は、

$$a(x - x_0) + b(y - y_0) + c(z - z_0) = 0$$

2. 逆に、 x, y, z の1次式 $ax + by + cz + d = 0$ は、 $\mathbf{n} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$ に垂直な平面を表す。

3. $z = a(x - x_0) + b(y - y_0) + z_0$ は、 z に対する x 方向の傾きが a 、 z に対する y 方向の傾きが b で、点 (x_0, y_0, z_0) を通る平面の方程式。

4. $z = ax + by + c$ は、 z に対する x 方向の傾きが a 、 z に対する y 方向の傾きが b の平面を表す。

5. 点と平面の距離: 平面 $ax + by + cz + d = 0$ と点 $B(p, q, r)$ との距離 L は、

$$L = \frac{|ap + bq + cr + d|}{\sqrt{a^2 + b^2 + c^2}}$$

- 問 23 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix}$ に垂直で、点 $B(1, 0, 4)$ を通る平面の方程式を求めよ。

- 問 24 $A(1, 1, 6)$, $B(0, 1, 3)$, $C(1, 3, 2)$ を通る平面の方程式を求めよ。

- 問 25 問 23 の平面と原点との距離を求めよ。

6 ベクトルの外積

定義 6.1 (外積)

1. 右手系: 3次元座標軸が右手系であるとは、 x 軸、 y 軸、 z 軸の向きが、右手の親指、人差し指、中指で無理なく表せるもの。 x 軸の方向から y 軸の方向に右ねじを回すと、そのねじの進む方向が z 軸の方向と同じになる、と言い変えてもよい。(図 12, 13)
2. 外積: 3次元ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} に対し、 $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$, $\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ で、 \mathbf{a} と \mathbf{b} が平行でないとき、 \mathbf{a} と \mathbf{b} の外積 (または ベクトル積) $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ は、次のような「ベクトル」とする (図 14)。
 - (a) $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ の大きさ $|\mathbf{a} \times \mathbf{b}| = S$ と \mathbf{a} と \mathbf{b} が作る平行四辺形の面積 S
 - (b) $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ の方向 = \mathbf{a} , \mathbf{b} の両方に垂直
 - (c) $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ の向き = \mathbf{a} から \mathbf{b} へ右ねじを回して進む向き (\mathbf{a} , \mathbf{b} , $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ が右手系)
3. $\mathbf{a} = \mathbf{0}$, $\mathbf{b} = \mathbf{0}$, $\mathbf{a} // \mathbf{b}$ のいずれかであるときは、 \mathbf{a} , \mathbf{b} の両方に垂直な方向が決まらないが、その場合は $\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \mathbf{0}$ とする。

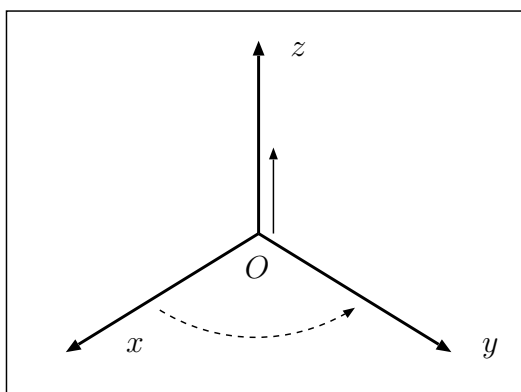


図 12: 右手系

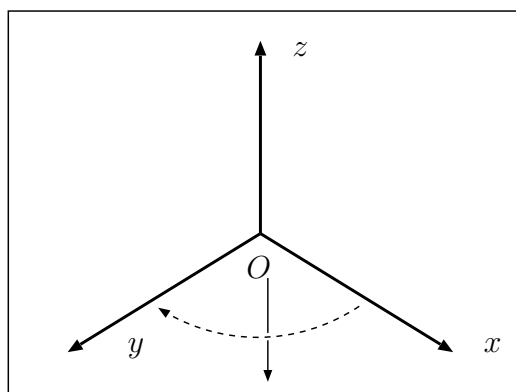


図 13: 左手系

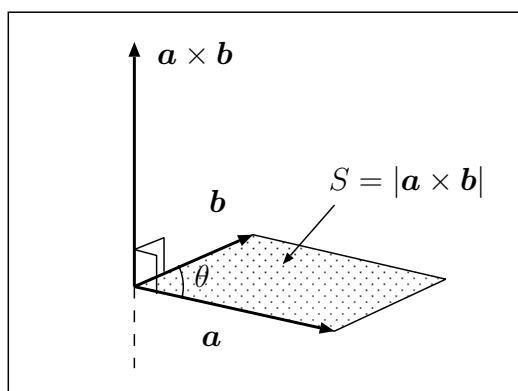


図 14: ベクトルの外積

☆注意

- 外積は 3 次元空間ベクトルのみ考え、平面ベクトルの外積は考えない。
- 実数 (スカラー) では $a \cdot b$ と $a \times b$ はどちらも単なる積 (ab) と同じ意味だが、ベクトルでは、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$ (内積) と $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ (外積) は意味が異なるので、正しく書き分けること。

定理 6.2 (基本ベクトルの外積)

$$\begin{aligned} \mathbf{e}_1 \times \mathbf{e}_2 &= \mathbf{e}_3, & \mathbf{e}_2 \times \mathbf{e}_3 &= \mathbf{e}_1, & \mathbf{e}_3 \times \mathbf{e}_1 &= \mathbf{e}_2, \\ \mathbf{e}_2 \times \mathbf{e}_1 &= -\mathbf{e}_3, & \mathbf{e}_3 \times \mathbf{e}_2 &= -\mathbf{e}_1, & \mathbf{e}_1 \times \mathbf{e}_3 &= -\mathbf{e}_2 \end{aligned}$$

問 26 外積の定義より、次の外積を求めよ。(1) $2\mathbf{e}_1 \times \mathbf{e}_2$ (2) $(\mathbf{e}_1 + \mathbf{e}_2) \times \mathbf{e}_1$

定理 6.3 (外積と成分)

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix} \text{ のとき、 } \mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{pmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{pmatrix}$$

□外積の成分計算

外積の成分計算は、以下の図 15, 16 のように計算するとよい。

(図 16 は $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 3 \end{pmatrix}$ の場合の $\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 17 \\ 1 \\ -11 \end{pmatrix}$ の計算例)

- (1) \mathbf{a} の成分を 2 回書き並べ、
- (2) \mathbf{b} の成分をその右に 2 回書き並べ、
- (3) 両端 (上端、下端) を削り、
- (4) 斜めにかけて引き算をすればそれが外積の各成分。

☆注意

外積 $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ は、定義により \mathbf{a}, \mathbf{b} に垂直なので、 $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{a} = 0, (\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{b} = 0$ となる。これは、外積の成分計算結果の検算に利用できる。

例えば、図 16 の例の場合、 $51 + 4 - 55 = 0, 34 - 1 - 33 = 0$ となる。

問 27 次の外積を求めよ。

$$\begin{aligned} (1) & \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ -1 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 5 \end{pmatrix} & (2) & \begin{pmatrix} 5 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} \\ (3) & \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} 3 \\ -3 \\ 6 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

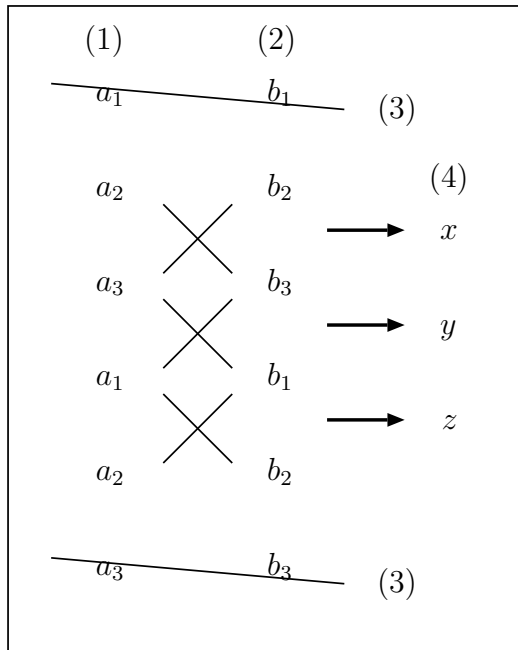


図 15: 外積の成分計算

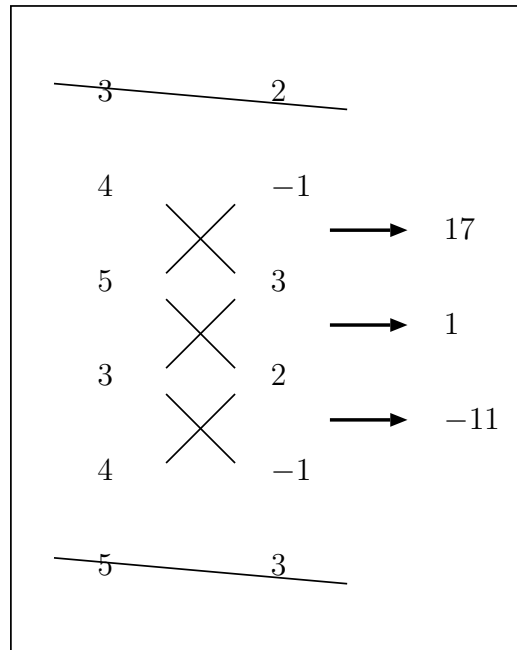


図 16: 成分計算の例

定理 6.4 (外積の性質) 3次元ベクトル \mathbf{a} , \mathbf{b} , \mathbf{c} 、スカラー k に対して次が成り立つ。

1. $\mathbf{a} \times \mathbf{a} = \mathbf{0}$
2. $\mathbf{b} \times \mathbf{a} = -\mathbf{a} \times \mathbf{b}$
3. $\mathbf{a} \times (\mathbf{b} + \mathbf{c}) = \mathbf{a} \times \mathbf{b} + \mathbf{a} \times \mathbf{c}$, $(\mathbf{a} + \mathbf{b}) \times \mathbf{c} = \mathbf{a} \times \mathbf{c} + \mathbf{b} \times \mathbf{c}$
4. $(k\mathbf{a}) \times \mathbf{b} = k(\mathbf{a} \times \mathbf{b})$, $\mathbf{a} \times (k\mathbf{b}) = k(\mathbf{a} \times \mathbf{b})$
5. $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$, $\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$ のとき、 $\mathbf{a} // \mathbf{b} \iff \mathbf{a} \times \mathbf{b} = \mathbf{0}$

☆注意

外積では結合法則は成り立たない。すなわち、 $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \times \mathbf{c}$ と $\mathbf{a} \times (\mathbf{b} \times \mathbf{c})$ は等しくない。例: $(\mathbf{e}_1 \times \mathbf{e}_2) \times \mathbf{e}_2 = -\mathbf{e}_1$, $\mathbf{e}_1 \times (\mathbf{e}_2 \times \mathbf{e}_2) = \mathbf{0}$

□外積の応用

- 展開 (内積の展開とはだいぶ違う):

$$(\mathbf{p}\mathbf{a} + \mathbf{q}\mathbf{b}) \times (\mathbf{r}\mathbf{a} + \mathbf{s}\mathbf{b}) = pr(\mathbf{a} \times \mathbf{a}) + ps(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) + qr(\mathbf{b} \times \mathbf{a}) + qs(\mathbf{b} \times \mathbf{b})$$

$$= (ps - qr)(\mathbf{a} \times \mathbf{b})$$
- 大きさ = 平行四辺形の面積: $|\mathbf{a} \times \mathbf{b}| = |\mathbf{a}||\mathbf{b}| \sin \theta$
- \mathbf{a} と \mathbf{b} が作る三角形の面積 = $\frac{1}{2}|\mathbf{a} \times \mathbf{b}|$
- $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c} = \mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ の三重積 = $(\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ が作る平行六面体の体積) $\times (\pm 1)$

- フレミングの法則: 磁束密度 \mathbf{B} の磁界の中で流れる電流 I の流れる方向が \mathbf{n} (= 単位ベクトル) であるとき、その長さ l の導線に働く力は $\mathbf{F} = ((I\mathbf{n}) \times \mathbf{B})l$

問 28 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} -4 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -3 \end{pmatrix}$ に対し、次のものを求めよ。

- (1) \mathbf{a} と \mathbf{b} が作る平行四辺形の面積 S (2) \mathbf{a} と \mathbf{b} に垂直な単位ベクトル \mathbf{n}

問 29 $\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \\ -4 \end{pmatrix}$ のとき、次のものを求めよ。

- (1) $(2\mathbf{a}) \times (3\mathbf{b})$ (2) $(\mathbf{a} + \mathbf{b}) \times (2\mathbf{a} - \mathbf{b})$ (3) $(\mathbf{a} + \mathbf{b})$ と $(2\mathbf{a} - \mathbf{b})$ が作る三角形の面積

問 30 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 3 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ 5 \end{pmatrix}, \mathbf{c} = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ に対し、

- (1) $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ を求めよ。 (2) $\mathbf{b} \times \mathbf{c}$ を求めよ。 (3) $(\mathbf{a} \times \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c}$ と $(\mathbf{b} \times \mathbf{c}) \cdot \mathbf{a}$ が等しいことを示せ。

- 問 31 問 20 を、 $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ を計算することで解け (ヒント: $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ と \mathbf{c} は平行)。

□内積と外積の比較

項目	内積	外積
記号	$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$	$\mathbf{a} \times \mathbf{b}$
値	スカラー値	ベクトル値
交換法則	$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = \mathbf{b} \cdot \mathbf{a}$	$\mathbf{a} \times \mathbf{b} = -\mathbf{b} \times \mathbf{a}$
分配法則	成立	成立
同じものの積	$\mathbf{a} \cdot \mathbf{a} = \mathbf{a} ^2$	$\mathbf{a} \times \mathbf{a} = \mathbf{0}$
ゼロになるとき	$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0 \iff \mathbf{a} \perp \mathbf{b}$	$\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \mathbf{0} \iff \mathbf{a} \parallel \mathbf{b}$
次元	2次元、3次元	3次元のみ

問の略解

1 節

問 1 (1) $\vec{EF}, \vec{DO}, \vec{CB}, \vec{OA}$ (\vec{OA} 自身も \vec{OA} に等しい)
 (2) $\vec{FO}, \vec{OC}, \vec{ED}, \vec{AB}$ (\vec{AB} 自身も \vec{AB} に等しい)

問 2 (1) 2, (2) $2\sqrt{3}$, (3) 4

2 節

問 3 (1) 図は略 (右に 4、上に 1 上がったベクトル),
 (2) 図は略 (右に 3、上に 4 上がったベクトル),
 (3) 図は略 (左に 1、上に 1 上がったベクトル)

問 4 左辺 = $(\vec{AB} + \vec{BC}) + \vec{CA} = \vec{AC} + \vec{CA} = \vec{AA} = \mathbf{0}$

問 5 (1) 図は略 (左に 2、上に 3 上がったベクトル),
 (2) 図は略 (右に 1、下に 2 下がったベクトル),
 (3) 図は略 (右に 5、下に 5 下がったベクトル)

問 6 略

問 7 $15\mathbf{a} + 2\mathbf{b}$

問 8 (1) 図は略 (左に $1/2$ 、上に $4/3$ 上がったベクトル),
 (2) 図は略 (右に $2/3$ 、下に $1/2$ 下がったベクトル),
 (3) 図は略 (右に 2、下に 2 下がったベクトル)

問 9 (1) $\vec{AO} = \mathbf{a} + \mathbf{b}$, (2) $\vec{AC} = 2\mathbf{a} + \mathbf{b}$, (3) $\vec{BD} = \mathbf{a} + 2\mathbf{b}$

3 節

問 10 略

問 11 (1) $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \end{pmatrix}$, (2) $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}$,
 (3) $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} -3 \\ 3 \end{pmatrix}$

問 12 (1) $\vec{AB} = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \end{pmatrix}$, (2) $3\vec{BA} = \begin{pmatrix} -9 \\ -6 \end{pmatrix}$, (3) $|-5\vec{AB}| = 5\sqrt{13}$

問 13 (1) 与式 = $\begin{pmatrix} -6 \\ -14 \\ 24 \end{pmatrix}$, (2) 与式 = $7\mathbf{a} - 5\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 21 \\ 22 \\ -39 \end{pmatrix}$,
 (3) 与式 = $2\sqrt{15}$

問 14 (1) $\mathbf{c} = \mathbf{a} + \mathbf{b}$, (2) $\mathbf{d} = \frac{12}{7}\mathbf{a} + \frac{4}{7}\mathbf{b}$

問 15 $D(-8, -2, 5)$

問 16 (1) $x = -9/2$, (2) $\mathbf{c} = \begin{pmatrix} 4/5 \\ 3/5 \end{pmatrix}$

4 節

問 17 (1) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AD} = 4$, (2) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AF} = -2$, (2) $\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 6$

問 18 (1) $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = -15$, (2) $\mathbf{b} \cdot (-3\mathbf{b}) = -63$, (3) 与式 = -19

問 19 $\cos \theta = \frac{14}{\sqrt{231}}$

問 20 $\mathbf{c} = \begin{pmatrix} 2 \\ -2 \\ -2 \end{pmatrix}$

問 21 $|\mathbf{a} - 2\mathbf{b}| = \sqrt{89}$

問 22 $W = \frac{75}{2}\sqrt{2}[\text{Nm}] = 53 [\text{Nm}]$

5 節

問 23 $3x + y - 2z + 5 = 0$

問 24 $3x - 2y - z + 5 = 0$

問 25 $\frac{5}{\sqrt{14}}$

6 節

問 26 (1) $2\mathbf{e}_3$, (2) $-\mathbf{e}_3$

問 27 (1) $\begin{pmatrix} 11 \\ -13 \\ 7 \end{pmatrix}$, (2) $\begin{pmatrix} -2 \\ -6 \\ -5 \end{pmatrix}$, (3) $\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$

問 28 (1) $S = \sqrt{110}$, (2) $\mathbf{n} = \begin{pmatrix} \pm 3/\sqrt{110} \\ \pm 10/\sqrt{110} \\ \pm 1/\sqrt{110} \end{pmatrix}$

問 29 (1) $\begin{pmatrix} 18 \\ 6 \\ -24 \end{pmatrix}$, (2) $\begin{pmatrix} -9 \\ -3 \\ 12 \end{pmatrix}$, (3) $\frac{3}{2}\sqrt{26}$

問 30 (1) $\mathbf{a} \times \mathbf{b} = \begin{pmatrix} -14 \\ 1 \\ 5 \end{pmatrix}$, (2) $\mathbf{b} \times \mathbf{c} = \begin{pmatrix} -5 \\ -5 \\ 5 \end{pmatrix}$, (3) 略 (15)

問 31 略